

- ・「子午線のまち明石」エピソード・ゼロ
- ・KAGAYA作品展



「子午線のまち明石」エピソード・ゼロ

明石市立天文学館 館長 井上 毅

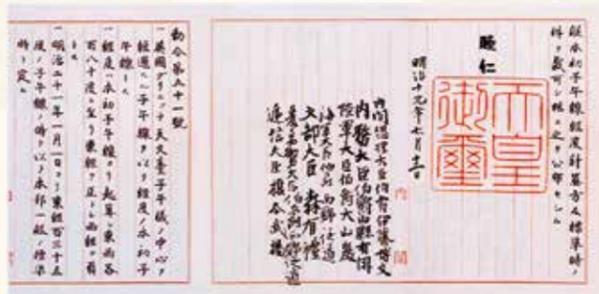
1 はじめに

1884（明治17）年に米国で国際子午線会議が開催され、英国グリニッジ天文台を通る子午線を本初子午線とすることが決定しました。1886（明治19）年7月に日本標準時を東経135度子午線上の時刻と制定され、1888（明治21）年1月1日から日本標準時が施行されました。1910（明治43）年、明石に最初の子午線標識が建てられました。これが「子午線のまち明石」のはじまりです。最初の子午線標識の建立は、明石郡小学校長会で決議され、教員たちの寄付により実現しました。その後、時代とともに明石市に次々と子午線標識が建立され、1960（昭和35）年の明石市立天文学館の建設につながります。一連の出来事は、日本における興味深い科学と文化の歴史といえるでしょう。

日本標準時が制定されてから子午線標識建立までの約30年間にどのようなエピソードがあり、標識建立に至ったのでしょうか？近年になり、「明治期の明石と子午線」という興味深いテーマについて考察した論文が2つ発表されています。

ひとつは、義根益美 明石の歴史第2号（2019年）「日本標準時子午線制定のいきさつ―本初子午線と東経135度線に対する菊池大麓のこだわり―」、もうひとつは吉野健一 算数教育史研究第22号（2022年）「算術教育史から考察する「子午線のまち明石」の誕生―国定算術教科書と子午線標識建立との関係―」です。いずれも綿密な調査で興味深い内容です。

本稿では、これまでほとんど知られていなかった「明石と子午線の歴史」における重要な資料を紹介しましょう。



勅令第51号（国立公文書館提供）

2 「子午線が明石を通る」の初出は？

日本標準時子午線が明石を通ると最初に書いた人は誰なのでしょう。明治19年の日本標準時制定の勅令にもその後発行された官報にも、明石の名前は出てきません。国立国会図書館デジタルアーカイブを検索すると、「換展誌第4号（1888年5月1日発行）」という資料に「京都にても本年1月1日零時より標準時を報することとなりしが標準時とい何たる故を知らざる人あり奇日新報一月七日小林洵氏の寄稿知り易ければ此れ転載す」とありました。「明石と子午線」に触れた最初期のものと思われる。ここでは、奇日新報の記事が引用されていました。同紙は明治時代中期に京都で発行された新聞で、奇数の日に発行されたことからその名がつけられました。先進的なニュースを扱っていたようで、日本標準時が施行された直後である1888年の1月7日に早速日本標準時の紹介記事が掲載されました。記事を書いた小林洵は、後に東京帝国大学の教授を務めた高楠順次郎の筆名で、当時は京都にある普通教校（現龍谷大学）で学ぶ学生でした。同紙については国会図書館アーカイブでも発見できませんでしたので、小林洵が在籍し、奇日新報とも関係が深い龍谷大学に問い合わせましたところ、同大学の中西直樹教授より当時の記事の写しデータを提供いただきました。記事は当時の言葉で書かれていましたので読みやすいように現代の言葉に訳して紹介します。

×-----××××

日本全国の時刻の改正について、よく考えてみれば、それほど大騒ぎするようなことではありません。しかし、実際に改正を進めるのは簡単なことではなく、軽い気持ちで考えていると、なかなか実行に移せないものです。これは、かつて太陰暦から太陽暦へと改暦されたときのようなものだと思います。あるとき、ある学校の高等生徒が下宿屋で標準時について説明しようとして苦戦しているのを、陰ながら聞いたことがあります。また、ある有名な説教師が、信徒から標準時についての質問を受け、「今の時代でも、わからないことはたくさんあります」と答えているのを聞いたこともあります。この二人のように、理解力に乏しい人は当然ほかにもいるでしょう。しかしながら、教育を受けていない女性や子どもたちのために、この標準時の仕組みをわかりやすく説明することは、決して無駄ではないと信じています。そこで、ここでは問答形式にして、できるだけ簡単に説明することとします。

×-----××××

このように標準時の導入による当時の人々の戸惑う様子の描写とともに記事執筆の動機が書かれています。そして、「標準時の実施が決定されたのはいつ？」「決定の根拠は何？」などの質問に対し、標準時制定の経緯や必要性などがわかりやすく説明されています。

×-----××××

「問 日本ではどのように標準時を定めたのですか？ 答 日本では、イギリスのグリニッジ天文台を通る本初子午線（経度0度）を基準とし、そこから東経135度の子午線を日本の標準時の基準とすることが決定されました。この子午線は播州の中央付近、兵庫県庁の位置より14分西で、明石の近傍にあります。そのため、日本全国で従来の時間と異なることになりました。」

×-----××××

ここに「明石」という言葉が登場したのです！今のところ、これが私の知る最も古い「日本標準時子午線と明石」を結びつけた文章です。

3 最初の子午線標識建立を提案した人は？

では最初の子午線標識の建立を呼びかけた人は誰でしょう？先の論文の筆者である義根益美さんは、昨年、明治時代の教育雑誌を閲覧中、ある記述を発見しました。

1902（明治35）年に8月1日から7日かけて明石で教育者向けの避暑講演会が開催されました。会期中である8月6日、明石教育支会の発案で、中崎海岸で茶話会がおこなわれ、会の10分スピーチで、大阪から参加した教員の藤林栄吉氏が「明石に子午線の表示をするとよい」という提案したというのです。この発言は、「教育学術界第5巻第六号誌」に記録されていました。記事を現代語に訳して紹介します。



明石に子午線記念碑を建てる 藤林栄吉（大阪府）

（前略）今回の講師の先生方はもちろんのこと、また教育学術研究会もそうですが、特に明石郡の教育会の皆様には大変お世話になったことが、とてもありがたく、私も深く感謝しております。（略）この感謝の気持ちを、何か形にして残したい、そう考えています。（略）私たちがわずかなお金を出し合いながら、意義深い記念を残せる方法を、精一杯の知恵を絞って考えました。それは特別なことではありません。しかし、この件については世間で一般的に行われている方法をとる前に、まず明石郡の教育者の皆さんと相談するべきであると考えました。通常ならば、これが正しい手順でしょう。しかし、私は形式的な会議や議論ばかりに流されることを避けたいと思っています。私たちの生徒たちが将来社会に出たとき、公正かつ正しく物事を進めることができるようになってほしいと思っているからです。そのため、まだ明石郡の教育会の方々には正式に相談していません。したがって、明石郡の教育者の皆さんがこの提案を受け入れてくださるかは分かりません。しかし、ここで皆さんと直接意見を交わしたいと思い、提案させていただきます。明石には名所がたくさんあります。私が改めて言うまでもなく、皆さんも修学旅行などで生徒を連れてこの地を訪れることがあるでしょう。学校が引率しなくても、生徒自身が親に連れられるなどして、何らかの形で訪れることもあるでしょう。ここへ来たとき、先ほど中谷先生が話されたように、人丸神社（柿本人麻呂を祀る神社）を訪れ、過去の和歌を鑑賞しながら昔の歌人に思いを馳せることもあるでしょう。

しかし、それだけでなく、ここ明石の土地は、日本の中央標準時の正午を決める子午線が通る場所であることを忘れてはなりません。つまり、ここは東経135度の子午線が通る地点なのです。例えば、「ここは弘法大師（空海）が立ち寄った場所だから記念碑を建てる」ということはよくあります。また、「ここで豊臣秀吉があくびをした場所だから記念碑を建てる」ということもあります。しかし、本当に役に立つ記念碑が建てられるべき場所には、記念碑がないのです。生徒たちは親に連れられて明石の海に来て海水浴をしたり、人丸神社に参拝したり、岩屋明神にお参りしたりするでしょう。しかし、親が子どもに向かって、「ここが東経135度の地点であり、日本の中央標準時の基準となる子午線が通る場所だ」と説明することはほとんどないでしょう。そこで、この土地が子午線の通る場所であることを広く知らせることができるならば、正確な測量を行い、この海のどこに東経135度の子午線が通っているのかを正式に確定してもらうべきです。そして、その場所に標識を設置するのです。もし、この計画に賛同してくれる人が少なかったとしても、やむを得ません。その場合は、せめて紙に書いて貼り、「ここは日本の標準時が通る場所である」ことを示しましょう。もしその紙が破れてしまったら、誰か志のある人がまた貼り直してくれるでしょう。また、もし私たちのような貧しい者たちが少しずつお金を出し合い、10銭ほど集めることができれば、木の板を立てて標識を設置することができます。さらに、もし4～5銭ずつ寄付する人が100人いれば50銭が集まり、200人の賛同者がいれば1円が集まります。もし明石の地元の人々も「これはもっともなことだ」と考え、資金に余裕のある人が支援してくれるならば、最終的には立派な石碑を建てることもできるでしょう。つまり、私たちが少しずつお金を出し合えば、大蔵大臣（国の財政）に頼らなくても、この計画は実現できると思うのです。これから明石郡の教育者の皆さんと相談し、もし賛同していただけるならば、明日から正式に告知を行いたいと思います。私は精一杯の知恵を絞り、この計画を考えました。この計画に100%納得できなくても、どうか「まあ、やってみてもいいのではないか」という気持ちで賛成していただけることを願っています。（会場、拍手喝采）



この発言は、本当に見事なものです！実際、8年後の教員たちの寄付により子午線標識建立が実現しました。藤林氏の発言は、こうした出来事とともによく一致します。その後の子午線標識建立や天文学館の建設により、全国から見学者が訪れています。子午線のまち明石にとって、重要な発言であったことは間違いありません。

最初の子午線標識建立がエピソード1とするなら、今回紹介した話は、エピソード・ゼロといえるでしょう。子午線のまち明石の形成には、まだ知られていない興味深いエピソードがありそうです。情報をお持ちの方がいらっしやいましたらぜひお知らせください。

謝辞)

記事作成にあたり、義根益美さん、龍谷大学三谷真澄先生、中西直樹先生から資料や情報の提供をいただきました。心より感謝します。



最初の子午線標識



天文学館

特別展「KAGAYA作品展」

★ 星空アーティスト・KAGAYAの撮影した美しい写真を展示しました。
会期：2025年2月1日(土)～4月6日(日)
展示作品から、いくつかを紹介します。

星空アーティストKAGAYAさんからのメッセージ

写真は中学生のころ本格的に始めました。当時は自宅の庭で星の写真を撮り、フィルムを自分で現像、毎晩のようにお風呂場を暗室にしてプリントすることに熱中していました。30年たった今、撮影場所は世界中に広がり、「宇宙の中の惑星地球」を感じる景色をこの目で見たくてあちらこちらにでかけ、現場からインターネットのツイッターなどで写真を発表しはじめました。わたしにとって写真は絵画作品や映像作品と同じように、あこがれの世界を心に写し取り、印象を伝える手段の一つなのだと気がつきました。見てくださった方々からたくさんのお声をいただいたことが大きな励みになり、力をいただきました。わたしの写真を見てくださった方が、神秘に夢を馳せたり、ホッと幸せな気持ちになっていただけたら幸いです。



サザンクロスとサザンライツ

教会の上に輝くサザンクロス（南十字、写真左上）と天の川、そして赤いサザンライツ（オーロラ）の共演です。
撮影地：ニュージーランド、南島
2024年10月28日15時22分（UT）



銀河のともし灯

満天の星の下、旅の安全を守る灯台。
長い旅路も、どうか道に迷わないよう。
撮影地：東京都三宅島
2019年7月27日00時12分



シリウスのツリー

ただ一面の雪と星空が広がる世界。
その時ただきに輝いたのは、全天で最も明るく輝くシリウスでした。

撮影地：北海道
2019年3月10日22時24分



薄明の空いっぱい

夜明け、空が青く染まる時間になって、にわかに満天に広がったオーロラ。
夜の終わりの夢のような時間。

撮影地：アイスランド
2019年10月10日05時50分(UT)

西部図書館25周年記念イベント

11月9日(土)

西部図書館と西部市民会館が、2024年11月11日に開館25周年を迎えました。これを記念し、11月9日に西部市民会館ホールで「西部 de フェスタ!」が開催されました。

家族を対象とした午前の部では、おはなしムッシュによる絵本の読み聞かせの後、シゴセンジャーやブラック星博士が登場し、客席の皆さんとともに、星や宇宙のクイズで楽しみました。その後の、絵本作家・たなかひかる先生によるワークショップも、リクエストされたワードをもとに即興で描かれるイラストに、会場は大盛り上がりでした。



午後の部は天文科学館・井上館長による「おひるま星空トーク」でした。プラネタリウム100周年にあわせて出版された井上館長の著書「星空をつくる機械」にちなみ、プラネタリウムの歴史やしくみ、そしてプラネタリウムのふるさとを訪ねたエピソードについてのお話しに、参加者は興味深く耳を傾けていました。

夏休み児童生徒作品展 中学生プレゼンテーション発表会

11月10日(日)

夏休み児童生徒作品展中学生の部入賞者による、中学生プレゼンテーション発表会を行いました。

その場で簡単な実験を行うなど、それぞれが「わかりやすく伝える」工夫をしながら自らの作品について発表しました。保護者や学校の先生など、大勢の大人の前で発表するという慣れない場面であったにも関わらず、みな堂々とした姿で、実験や観察対象に対する熱い想いが伝わってくる発表会でした。発表まで多くの練習を重ね、この日に挑んだことが伺われます。

見事な発表を行った生徒の皆さんをはじめ、サポートいただいた保護者の方、先生方に改めてお礼申し上げます。



トライやるウィーク

(明石市) 6月4日(火)～7日(金)
(神戸市) 11月13日(水)～15日(金)

中学生が地域での様々な体験活動を通じて、働くことの意義、楽しさを実感したり、社会の一員としての自覚を高めるなど、生徒一人一人が自分の生き方を見つけられることを目的に行われているトライやるウィーク。令和6年度は6月4日(火)～7日(金)に明石市の中学生、11月13日(水)～15日(金)に神戸市の中学生をそれぞれ14名受け入れました。



館内放送や、設備の整備・点検作業、大型遠鏡の見学、保育園での紙芝居・クイズなど、多岐にわたる業務を体験。この中で作成した展示物の解説資料は、観覧者の方からもわかりやすいと好評をいただいています。今年もたくさんの力作が出来上がりました。ご来館の際ぜひご覧になってください。

特別展 SSP(日本自然科学写真協会)展 「自然を楽しむ科学の眼」ギャラリートーク

11月17日(日)

特別展のギャラリートークを「子ども向け」「一般向け」の2回、実施しました。講師には、写真展に出展されていた玉田尚之さん、西谷尚之さんのお二人をお迎えしました。参加者のみなさんは、写真のバックグラウンドや、それぞれの想いなどの話に熱心に聞き入っておられました。キッズの回では、質問も多数あり、撮影に使用しているカメラに触れる体験は、家族連れに大変喜ばれました。



〈広告〉

「星空のレシピ」に広告を掲載希望の業者の方は、明石市立天文科学館までご連絡ください。※内容によっては、掲載できない場合もあります。

2025年度 明石市立天文科学館



星の友の会 会員募集!

※詳しくは、HPなどをご覧ください。

- 年会費**
個人会員：2,000円 ※小学4年生以上(10/1以降の入会は1,000円)
家族会員：3,000円 ※同居している家族(10/1以降の入会は1,500円)
- 特典**
★年間の星の友の会行事への参加回数に応じてお楽しみプレゼント(4回・8回/例会・友の会天体観望会・野外天体観測会など)
★例会の開催(例会参加時の入館料は無料)
★野外天体観測会・施設見学会等の開催(別途費用が必要)
★天文科学館の天体観望会の参加費無料
★星の友の会天体観望会も開催
★友の会会報「135°の星空」の発行・配布
★館広報誌「星空のレシピ」の配布、イベント等も随時お知らせ
★天文科学館ボランティア「天ボラ」に参加できます

クリスマス“キッズ”ナイトミュージアム

12月14日(土)

大人も子どもも楽しめる、キッズナイトミュージアムを開催しました。

出演いただいたワタナベフラワーの皆さんによる楽しい生演奏とパフォーマンスで、スタートから会場は一気に大盛り上がりとなりました。休憩を挟んだ後はゆったりとプラネタリウムの星空を眺めながら、クリスマスの頃に見つけられる星座を探しました。満天の星の元でも音楽を演奏いただき、最後までとても活気のあるイベントとなりました。

イベント終了後のアンケートには、「ライブと星のコラボが良かった」「プラネタリウムでのライブは特別感がありました」といった感想が寄せられました。



撮影:おはな

クリスマスナイトミュージアム

12月21日(土)

今年のクリスマスナイトミュージアムも辛島すみ子 with Friendsの皆さんの演奏で、ロマンチックなイベントとなりました。「I'll Be Home For Christmas」「White Christmas」などのクリスマスソングと共に2024年に話題になった彗星や土星、美しいオーロラの映像をお楽しみいただきました。また、井上館長と辛島さんの楽しいトークで、2024年と2025年の天文現象を紹介しました。

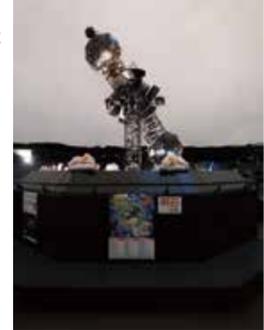


熟睡プラ寝たリウム

11月23日(土)・24日(日)

日頃お疲れの皆さんを解説者が熟睡へと誘うイベント「全国一斉熟睡プラ寝たリウム」が今年も開催されました。参加団体は68団体で、それぞれの工夫が凝らされた寝るためのイベントが行われました。

天文科学館では、23日・24日の2日間、午後2回の投影時間で、特別投影「熟睡プラ寝たリウム」を実施しました。館長は自前のパジャマで登場。「いびき席」からは、心地よい寝息・いびきが聞こえてきました。イベント後は出口で、参加証明書が配布されたほか、各回の熟睡率が公式SNSで発表されました。

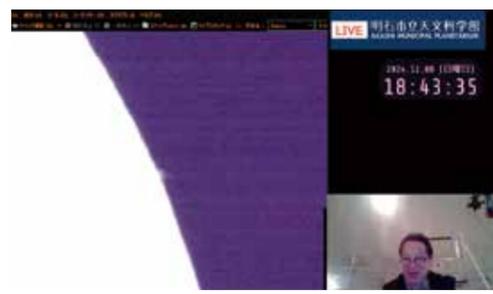


土星食観望会&中継

12月8日(日)

土星食とは、地球から見て月と土星が一直線に並ぶことで、月が土星を隠してしまうように見える天文現象です。天文科学館では、土星食の観望会を開催しました。当日の天候は曇りで、観望会が始まって双眼鏡の使い方レクチャーの間には雨が降った場面もありました。雨が上がった後も、時折月が顔を出すものの、土星食の瞬間は見ることができませんでした。

しかし、16階で行われていたライブ中継では、望遠鏡が雲越しに土星が月の後ろから出現する様子をとらえることに成功しました。天文科学館のYouTubeチャンネルにアーカイブがありますので、ぜひご覧ください。



館長コラム

学生のみなさんへ天ボラのすすめ

春になり、新しいことにチャレンジしたい方も多いのではないのでしょうか。そんな方におすすめしたいのが、当館の天文科学館ボランティア(略称:天ボラ)です。館内展示室でオレンジのベストを着て展示の案内をしたり、キッズルームで絵本の読み聞かせをしたり、観望会で活躍したり、当館の活動で大活躍しています。高校生や大学生も多く参加しています。進学や就職活動で「社会貢献活動」として履歴書に書く人もおり、役立ててもらえるのは嬉しいことです。

天ボラの大きな魅力は「人にものを伝える経験」ができることです。学びには三つの段階があります。第一は、授業のように受け身で知識を得ること。次に、博物館で展示を見たり、友の会に参加したりして、自ら学ぶ能動的な段階。そして、第三の段階が「人に伝えること」です。誰かに説明しようとする、知識を整理し、より深く理解する必要があります。この過程を通じて、学びがさらに深まり、コミュニケーション能力も磨かれるでしょう。

興味がある方、ぜひ天ボラに参加してみませんか? また、当館には「星の友の会」があり、仲間と交流しながら学ぶことができます。会員になると研修を受け、天ボラ活動に参加することができます。もちろん、学生に限らず大人の方も大歓迎です。天文を学び、伝える楽しさを、ぜひ一緒に体験しましょう!

プラネタリウム一般投影 解説員が、その日の夜に見える星空と、期間ごとのテーマにそったおはなしをわかりやすく紹介します。

北極の星空・南極の星空

4月1日(火)～4月30日(水)

北極では、北極星が頭の真上に輝きます。また、南極では、「みなみじゅうじ座」などの明石からは見られない星や星座が空高くに輝く姿を見ることができます。北極や南極の星空を案内します。



©高部哲也

プラネタリウム100周年特別投影 天文学の1世紀

5月1日(木)～5月31日(土)

今から100年前、1925年5月7日、世界で初めての近代的プラネタリウムがドイツ博物館に常設され、一般公開が始まりました。100年の間に、天文学は大きく飛躍しました。プラネタリウムと天文学の100年の歴史をご紹介します。

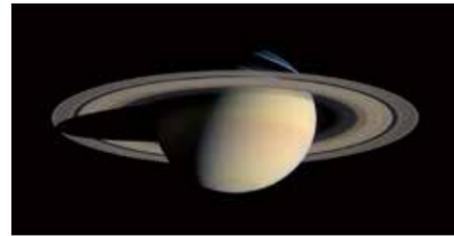


プラネタリウム 100周年

土星と時計とホイヘンス

6月1日(日)～6月29日(日)

機械式時計の仕組みの一つである「ひげゼンマイ」を発明したホイヘンスは、土星の観察もしています。時計の仕組みと土星についてご紹介します。



©NASA/JPL/Space Science Institute

キッズプラネタリウム

幼児や小学校低学年を対象とした子どもむけプラネタリウムです。毎週土曜・日曜・祝日と学校長期休業中(3/25～4/6)の第2回と第4回目の投影に実施します。

ひしゃくぼしとはるのほし

3月1日(土)～4月13日(日)

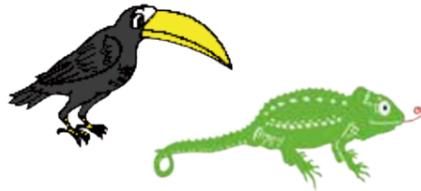
星がひしゃくのかたちと並んだひしゃくぼしのおはなしや春の星座をお話します。



みなみのくにのおほしさま

4月19日(土)～6月1日(日)

南の国ではどんなお星さまが見られるかな。南半球の星空をご紹介します。



*5月10日(土)・11日(日)の11時10分～は「軌道星隊シゴセンジャー(事前申込制)」のキッズプラネタリウムになります。

たなばたアワー

6月3日(火)～7月6日(日)

たなばたの物語や、夏の星座、宇宙についてわかりやすくお話しします。

●日程：
平日 9時50分～/11時10分～
土日 11時10分～/14時30分～



*平日は団体予約がある場合のみ投影があります。
*6月10日は時の記念日のため「たなばたアワー」はありません。

こども天文教室

最近の天文の話題やいろいろなテーマについて、天文科学館の学芸員が、小学4年生以上を対象に、わかりやすく解説します。天文について深く楽しく勉強しましょう。

- ・4月26日(土) 「たのしい星座さがし」
 - ・5月24日(土) 「宇宙のすがた」
 - ・6月28日(土) 「太陽と月のおはなし」
- 各日9:50～
※年齢に関係なく参加できます。



ベビープラネタリウム

乳幼児(0～4歳くらいまで)のお子さんと保護者の方が対象のプラネタリウムです。親子で一緒にプラネタリウムをお楽しみください。

●事前申込
●日程：
・4月12日(土)・25日(金)
・5月9日(金)・31日(土)
・6月7日(土)・21日(土)

●参加費：入館料のみ

10時～ 投影時間約30分

詳しくは当館ホームページをご覧ください。



星と音楽のプラネタリウム

素敵な生の音楽と星空をお楽しみいただくプラネタリウム特別投影です。

●日程：
・5月17日(土)13時10分～
・6月14日(土)13時10分～

詳しくは当館ホームページをご覧ください。



その他のイベント

軌道星隊シゴセンジャー

キッズプラネタリウムにシゴセンジャーとブラック星博士が登場!

●事前申込

●卓月場所
・5月10日(土)・11日(日) 11:10～

詳しくは当館ホームページをご確認ください。



特別展

プラネタリウム100周年×シゴセンジャー20周年

4月12日(土)～6月1日(日)

2025年5月7日、プラネタリウム100周年グランドフィナーレを迎えます。プラネタリウム100周年について写真などで振り返ります。また、シゴセンジャーが誕生してから今年で20周年。写真や映像でシゴセンジャー20年の歴史をご紹介します。



特別展「プラネタリウム博覧会」展示風景

「からくり時計の世界」セイコーミュージアム 銀座 共同企画

6月7日(土)～7月13日(日)

セイコーミュージアム銀座が所蔵するからくり時計を動態展示して紹介します。人形や文字板の動き、メロディをお楽しみください。



Event Calendar

4月	5月	6月
<p>4月1日(火)～4月30日(水) 「北極の星空・南極の星空」</p>	<p>5月1日(木)～5月31日(土) 「プラネタリウム100周年特別投影 天文学の1世紀」</p>	<p>6月1日(日)～6月29日(日) 「土星と時計とホイヘンス」</p>
<p>～4月13日(日) 「ひしゃくぼしとはるのほし」</p>	<p>4月19日(土)～6月1日(日) 「みなみのくにのおほしさま」</p>	<p>6月3日(火)～7月6日(日) 「たなばたアワー」</p>
<p>4月12日(土)～6月1日(日) 「プラネタリウム100周年×シゴセンジャー20周年」</p>		
<p>4月5日(土) 【事前申込】</p>	<p>4月26日(土) 「たのしい星座さがし」</p>	<p>6月7日(土) 【事前申込】</p>
<p>4月12日(土) 【事前申込】</p>	<p>4月25日(金) 【事前申込】</p>	<p>6月21日(土) 【事前申込】</p>
<p>5月10日(土) 【事前申込】</p>	<p>5月10日(土) 【事前申込】</p>	<p>6月28日(土) 【事前申込】</p>
<p>5月9日(金) 【事前申込】</p>	<p>5月24日(土) 「宇宙のすがた」</p>	<p>6月14日(土) 13時10分～ 【事前申込】</p>
<p>5月17日(土) 13時10分～ 【事前申込】</p>	<p>5月31日(土) 【事前申込】</p>	

略号 プラネタリウム一般投影 キッズプラネタリウム 特別展 こども天文教室 星と音楽のプラネタリウム 季節イベント 観望会 ベビープラネタリウム

休館日のお知らせ

4	5	6
<p>日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p>	<p>日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>日月火水木金土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p>

青文字：開館
赤文字：休館

天体観望会の実施日・申し込みについて

- ◆実施日時・申込方法の詳細についてはホームページをご覧ください
- ◆参加費 1人 300円
- 駐車場ご利用の場合は別途200円必要です



Information ご利用案内

プラネタリウム投影開始時刻

	第1回目	第2回目	第3回目	第4回目	第5回目
平日	9:50 <small>団体予約がある時のみ</small>	11:10	13:10	14:30	15:50
土・日・祝 及び 学校長期休業中	9:50	11:10 <small>キッズ プラネタリウム</small>	13:10	14:30 <small>キッズ プラネタリウム</small>	15:50

休館日

毎週月曜日・第2火曜日・年末年始

ただし、月曜日・第2火曜日が国民の休日・祝日となる日は閉館し、翌日が休館となります。年末年始の営業についてはホームページ等をご覧ください。

※臨時閉館・休館あり(ホームページ等でお知らせします)

開館時間

午前9時30分より午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

観覧料

	大人(高校生以下無料)
一般	700円
団体(30人以上100人未満)	630円
団体(100人以上)	560円
年間パスポート	2,000円

※年間パスポートは購入時から1年間、何度でもご利用いただけます。

※高齢者割引、障害者割引を行っています。

※明石市が発行する「シニアいきいきパスポート」提示で観覧料350円(65歳以上)が無料になります。

※コンサートやイベント等には別途料金が必要な場合があります。

駐車場

普通自動車・マイクロバス(約90台):2時間まで200円(以降1時間ごとに100円)／大型バス(8台):1回1,500円

施設概要

日本標準時の基準となる東経135度子午線の通過地に建てられた「時と宇宙の博物館」です。プラネタリウムは現役では日本最古、稼働期間も日本一です。

交通のご案内



- JR明石駅下車 東へ1km(徒歩約15分)
- 山陽電車丸前駅下車 北へ約0.2km(徒歩約3分)
- 車では国道2号線丸前交差点から北へ約0.2km
- 第二神明道路 大蔵谷I.C.から南西へ約3km
- 明石海峡大橋からは垂水出口を左折し、約6kmで国道2号線へ。国道2号線を西へ約4km(約20分)

明石市立天文科学館

<https://www.am12.jp/>
 X(旧ツイッター)@jstm135e
 〒673-0877 兵庫県明石市人丸町2-6
 TEL.078-919-5000/FAX.078-919-6000
 e-mail: otoiwase-tenmon@city.akashi.lg.jp



時間、それは宇宙からの贈りもの

上空2万kmの彼方のGPS衛星で刻まれる10万年に1秒の高精度。
 宇宙とつながり、時を知る。衛星電波クロック「セイコー スペースリンク」シリーズ。

SEIKO

お問い合わせ先: セイコータイムクリエーション株式会社 クロックお客様相談室 0120-315-474 (9:30~17:00 土・日・祝日を除く) <https://www.seiko-stc.co.jp/>

